

「ぐすーよー・ラサール・でーびる」

ラサール・パーソンズ著

石川清司編集

(沖縄タイムス社出版部：1500円)

「ぐすーよー」。沖縄の方言で、「皆さん」と呼びかける言葉で、ラサール神父の自叙伝です。来沖60年、現在86歳、沖縄の方言の話せる神父さんの物語です。

神父が、沖縄の地に足を踏み入れたのは、1956年9月16日、午前2時のことでした。印象的な日で、米軍占領下での沖縄の通貨「B円」が「ドル」変更されたその当日でした。

焼土と化した南の島に降り立った27歳の青年宣教師が目の当たりにした当時の沖縄とは、どのようなものであったのでしょうか。激動の50数年が矢のごとく過ぎ去り、激戦地沖縄は、悲惨な爆撃の爪痕を残しつつも本土復帰が実現した。

神父は、生来の開拓者の精神でもって琉球大学の学生を対象とした学生寮を開設し、寝食を共にし、沖縄の若者に夢を抱かせた。さらに、戦争の悲惨な痕跡を目の当たりにし、平和を追求する運動と人権擁護のために尽くし、アムネスティ・インターナショナルの沖縄代表の任にもある。

「沖縄・生と死と老いをみつめる会」は、1996年に活動が開始され、20年が経過。現在の活動は、毎月の定例会において毎月のテーマに沿っての学習および語り合いの集いが持たれています。

会の開設当初よりラサール神父が代表を務め、禅宗の崎山崇源老師が顧問役として指導的な役割を果たしてこられました。会の活動の歴史が神父の自叙伝に詳細に記録されています。両顧問ともに80歳代の後半の年齢にあり、会の歩みもゆるやかになり、会の存続についても話題になります。私が事務局を担当してきたこともあり、今回の資料の編集を担当しました。

本の序文のひとつを紹介します。「本を書くことが、誰かに対して何かを伝えることにもなるとしたら、私が今、これを読んで下さっている方々に伝えたいことは、“今まで生きてきてよかった”ということです。そして、もう一つ、“心から沖縄へ来て良かった”ということです。そして、一人ひとりに“あなたに出会えてよかった”と伝えることができたならば幸いに思います」。

「生と死と老い」の問題は、国境を越えた永遠のテーマでした。「目には目を、歯には歯を」の殺伐とした世相があります。経済最優先の混沌とした現代社会は、「生と死と老い」の基本的な課題から目をそらせる風潮です。中央における「生と死を考える会」、地方における本会の活動も、「命」がかくも粗末に扱われる現代社会にこそ必要とされているのではないのでしょうか。

本の、むすびの神父の言葉です。詩人、八木重吉氏の詩を引用して、「一步踏み出すのさえ、容易なことではない。ちがった一言を言うのさえ、この社会はむづかしいのだ。でも私はゆこう」・・・と。

来沖59年 米人神父の歩み

沖 縄

「ぐすーよー ちゆー うがな びら 沖縄へ来し もろまぐ60年 です これまで生きてきて良かった 沖縄へ来て良かった あなたに田舎へ良かった」と雑誌にあるように、現在86歳、二エーヨーク出身で沖縄をよき愛し今や「ちゆなーんちゆ」となつたサー神父の自分史である。

表紙の笑顔がたましい。1958年9月、21歳で青年宣教師として沖縄の地を踏んだからの歩みを、神父と田舎つて50年となる石川清司氏が纏束している。本書は未知の地で宣教師として生きる人間の背中を押す「力」は何が、そして沖縄の地に根を下ろす、その土壌は何が、を探る纏書者の思いが、神父とかわりを持ち多くの人々の纏束ともなっている。

揺るぎない信仰を土台に、開拓者の魂、改革の精神を持った神父が、沖縄の地を祈りながら使命を探し、「平和の種まき人」として実践してきた活動は数知れない。

「平和をもたらす人は幸いです」



石川 清司編著 ラサール・パーソンズ 1 「ぐすーよー「ラサール」でーびる」

るという纏書の纏束を實踐する。彼は、沖縄で田舎つた人々から「非暴力」「ゆるし」「心」「小を自然の言に耳を傾ける」といふ環境を考ふる姿勢」を率んだと語っている。

20年の歴史を持つ「沖縄・生と死と想いをめぐめる会」の代表として、多くの人々と交流を続け、現在も60年前と変わらぬ情熱と、しほくちを交えた朗らかな語り口で含意を筆行している。

「みんなー みんなー しななびー」と場を和ませ、エーモエにあふれるエピソードに思わず失笑してしまう場面もある。天性の潔さは神様からの賜物に違いない。彼は自分だけでなく「無償の愛」をもちこしているかに驚かすことで、他者へ愛を届けることができると述べている。

困難な中にあつても「…でも私はゆー」といふ人木書言の詩を引用し、『被抑圧者の教養学』(ペドロ・アイト書)から「対話」の纏書性を稱している神父の生きまじに、私も学びたいと思ふ。(大樽勤子・国立病院機構沖縄病院副院長)

沖縄メディア社・1620H
LASALLE・PARSONS 1
930年米二エーヨーク州生まれ。宣教師になり58年沖縄へ。沖縄人権協会理事などを務め、「沖縄・生と死と想いをめぐめる会」代表として、かわ・まよし介、読者人保徳施設「あけみおの里」施設長